

令和7年度 第2回石巻地域普及活動検討会



# 課題No.1 小ねぎ産地における次世代の人材育成

計画期間

令和5～7年度

チーム員

◎松原馨一、山口義昭、阿部定浩、  
國嶋広達、齋藤香奈



## 01 国内の小ねぎ産地

### 国内における主な小ねぎ産地と商品名

都道府県名	商品名	農協名
福岡県	博多万能ねぎ	JA筑前あさくら (旧朝倉町農協)
佐賀県	うまかねぎ	JAからつ
大分県	大分味一ねぎ	JA中津下毛
高知県	やっこねぎ	JA高知
山口県	安岡ねぎ	JA山口県
愛知県	なごやっこ葱	JAなごや
宮城県	仙台小ねぎ	JA新みやぎ
宮城県	スリムねぎ	JAいしのまき

## 02 課題の背景

桃生地区では、小ねぎの個別農家が園芸における主な担い手

### JAいしのまき 桃生スリムねぎ部会

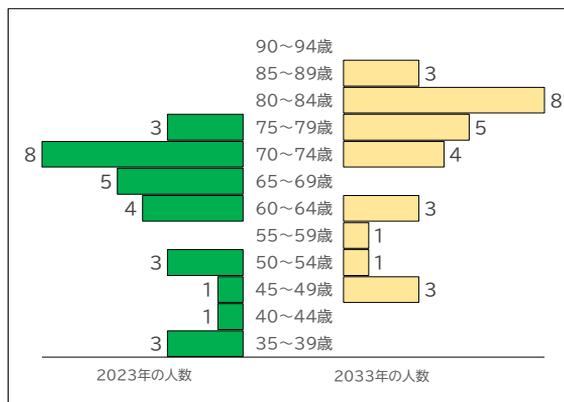
部会員数 28戸(60歳以上20人)

近年の年間出荷数量・販売額は減少傾向

10年後は高齢化が著しい…

が、これからの部会を担う  
若手もいる！

いまのうちに次世代の  
人材育成を！



スリムねぎ部会員の年齢構成

3

## 03 指導対象と目標

対象はスリムねぎ部会青年部員 11人

50代以下の部会員と、部会員の子弟で構成  
(50代 3人、40代 3人、30代 5人)



### 目標

- |       |   |
|-------|---|
| 定性的目標 | ① 青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む<br>② 産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される |
| 定量的目標 | R4年産実績よりも出荷量が上回る青年部員数 4人                                |

4

# 04 令和5年度の実績

現地指導  
土壌診断に基づく



生育ムラを灌水量の見える化により抑制



啓発  
研修会における意識

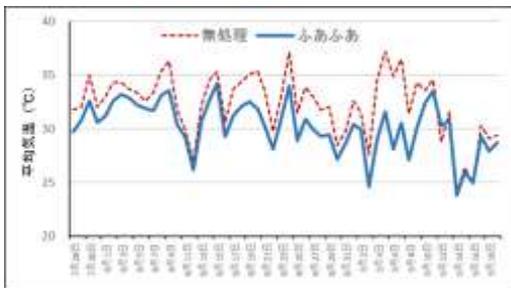


販売会への出店を通じた消費者との交流



# 05 令和6年度の実績①

遮光シート	遮熱剤	散乱光フィルム
遮光率30%のシートをハウスの上にかぶせる	熱をカットする薬剤をハウスに吹き付ける	ハウスに入る光を散らすフィルムに張り替える
商品名 ふあふあホワイトプラス30	商品名 レディヒート	商品名 美サンランイースター
取組人数 5人 設置数 8か所	取組人数 1人 設置数 2か所	取組人数 3人 設置数 4か所



## 浦谷の小ねぎ共同選別場の視察概要

小ねぎの収穫から出荷までの工程は…  
栽培 → 収穫 → 調整 → 選別 → 袋詰め → 梱詰め → 出荷  
浦谷の部会長はここをすべて選別場にお譲りできる！

**調整**

- ・この作業が完了すると収穫の準備が完了
- ・先ほどの除草を機械で作業
- ・4人のパート従業員
- ・約10時間

**選別**

- ・毎日に約1トン以上の作業量がある
- ・3人1組のパート従業員
- ・シフト制、夜間勤務、1日100円程度
- ・選別は選別機（機械）のパートで済ませる
- ・約10時間

令和6年3月現在の利用状況 調整員 24人のうち…  
 通常利用 8人 不正利用 9人  
 ・本選別場の申請のついでに選別機を出すことで、選別も行うこと  
 ・選別のしぼりはない  
 ・1日100円程度  
 ・もし1人1人可能であればオーバーした分、選別員長を優先して導入（金や枚など）

**浦谷部会 役員さんの声**

- ・調整員「おれずしに感謝」の声
- ・季節ごとの調整員に任せることで、経験が浅くても、おれずしが助えた！
- おかげで調整員数は増えていき、部会の活性化が図れた！
- ・選別機や調整機やパートの雇用が書かないので、新規導入も増えてきた
- ・選別作業がしやすいので子どもも参加の行事、親子にも選別機も行きやすい！
- ・急な出来事（病気、不慮）があっても「調整だけ」の部会役員同士でも協力しやすい

ご声！ スリムねぎ部会の「これから」を皆さんで考えませんか？



# 08 今年度の取組②

仙台小ねぎ部会長による出荷規格の説明  
仙台小ねぎの出荷調整



## スリムねぎ栽培の手引き

令和6年度産地対策栽培体系への転換支援事業



いしのまき農協スリムねぎ部会  
令和7年7月

# 09 今年度の取組③

### 1 入力する3つの変数

入力変数	単位
A : 経営面積	坪
P : 平均販売単価	円/kg
Y : 平均単収	kg/坪
算出値名	単位
H : 年間出荷量	kg
S : 年間売上高	円

### 2 スリムねぎの経営収支モデル

(単位:円)

推計値名	推計式
VC : 変動費	$VC = 0.710 \times S - 721,919$
FC : 現金固定費	$FC = 1,398,354 - 19.1 \times A$
EB : 償却前営業利益	$EB = S - VC - FC$
D : 年間減価償却費	$D = 2,280 \times A$
BI : 事業所得*	$BI = EB - D$

### 3 シミュレーション結果

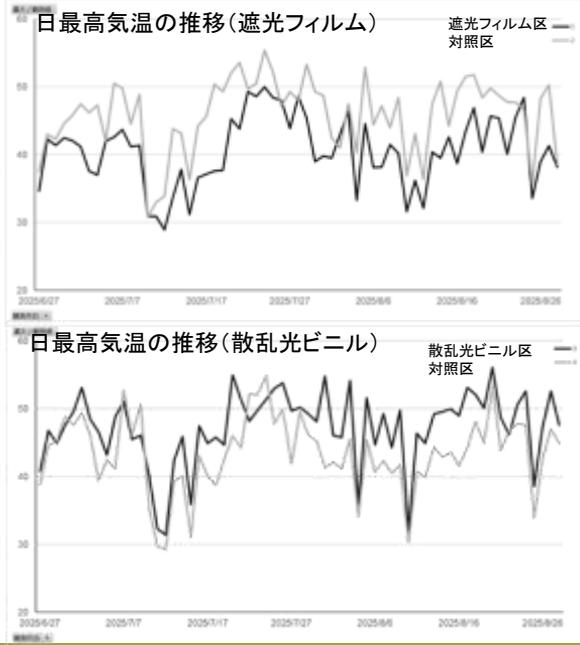
区分	変数名	記号	単位	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5	ケース6
入力変数	1 経営面積	A	坪	1,000	2,000	3,000	2,000	2,000	1,400
	2 販売単価	P	円/kg	1,100	1,100	1,100	1,100	1,300	1,100
	3 平均単収	Y	kg/坪	8.0	8.0	8.0	9.0	8.0	13.0
経営収支モデル 自己負担型	4 年間出荷量	H	kg	8,000	16,000	24,000	18,000	16,000	18,000
	5 年間売上高	S	円	8,800,000	17,600,000	26,400,000	19,800,000	20,800,000	19,800,000
	6 推計変動費	VC	円	5,526,000	11,774,000	18,022,000	13,336,000	14,046,000	13,336,000
	7 推計現金固定費	FC	円	1,379,000	1,360,000	1,341,000	1,360,000	1,360,000	1,372,000
	8 償却前営業利益	EBITDA	円	1,895,000	4,466,000	7,037,000	5,104,000	5,394,000	5,092,000
	9 推計減価償却費	D	円	2,280,000	4,560,000	6,840,000	4,560,000	4,560,000	3,192,000
	10 事業所得	BI	円	▲385,000	▲94,000	197,000	544,000	834,000	1,900,000
経営収支モデル 補助金型	9 推計減価償却費	D	円	1,140,000	2,280,000	3,420,000	2,280,000	2,280,000	1,596,000
	10 事業所得	BI	円	755,000	2,186,000	3,617,000	2,824,000	3,114,000	3,496,000

# 10 今年度の取組④

## 試験の概要

- 1 供試資材  
 散乱光ビニル : 美サンランイスター MKVアドバンス (株) 製  
 遮光フィルム : ふあふあホワイトプラス30 ダイアテックス (株) 製 (遮光率30%)
- 2 試験期間  
 令和7年6月27日午前0時から 8月28日午前0時までの62日間
- 3 測定方法  
 気温は、高さ40cmにセンサを固定し、20分単位に観測  
 地温は、深さ5cmのハウス内土壌にセンサを固定、20分単位に観測
- 4 試験区の設定

NO.	供試資材	供試品種	播種月日
1	遮光フィルム	やまひこ	5月21日
2	なし(対照区)	やまひこ	5月21日
3	散乱光ビニル	さんべい改良系	5月9日
4	なし(対照区)	さんべい改良系及び ブラックサマー	6月14日
5	遮光フィルム	若殿	5月27日
6	散乱光ビニル	若殿	6月12日
7	なし(対照区)	ブラックサマー	7月3日



11

# 11 評価

## 定性的目標① 青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む

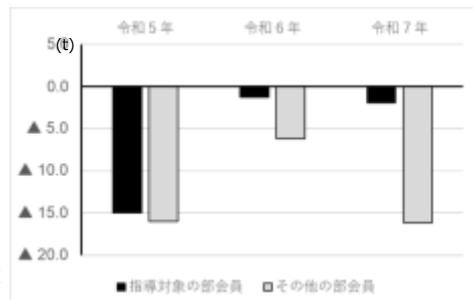
当面の課題であった高温による生育障害に対応するため、対策資材を導入する動きが広がったほか、新たな担い手を確保・育成するための経営指標を作成する取組を通じて、個々の経営状況を再認識するなど、個々の経営を改善するためにも、出荷量の拡大が不可欠であることが認識された。

## 定性的目標② 産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される

出荷量の拡大が部会の最重点課題として認識され、若手部会員は、スリムねぎ産地の担い手としての意識を持ち、高温対策栽培体系への転換に関する実証試験や、共同選別場の導入を睨んだ、出荷調製作業の福祉作業所への委託試験を行うなど、自ら主体的に課題解決に取り組むようになった。

定量的数値目標	R4年実績よりも 出荷量が上回った 若手生産者数7名
結果	2名

部会員別年間出荷実績  
の対前年差の推移



12

## 残された課題と対応

### 1 スリムねぎの出荷量の回復及び拡大

- ・ 福祉作業所と連携した、出荷調整作業の外部化

### 2 新たな担い手の確保・育成

- ・ 部会が主導する担い手の確保・育成の体制の構築

令和8年度以降も、重点課題のなかで支援を継続します。



No.2

水田における**ばれいしょ**  
及び**さつまいも**の安定生産



令和7年度第2回石巻地域普及活動検討会

1

## 目次

- 01 検討課題概要
- 02 課題と背景
- 03 目標（定性的、定量的目標）
- 04 活動内容
- 05 成果
- 06 まとめ



2

## 01

### 検討課題概要

対象： (株) めぐいと  
(農) おおしお北部  
(農) エコルファーム

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎佐藤敏昭、本多 興  
川戸菜摘、佐野佑真



3

## 02

### 課題と背景

#### 県内のカルビーポテト用ばれいしょの生産状況

- 平成14年から大崎市松山の個人経営体の4haから契約が始まり、平成20年から美里町で5haの栽培を開始、大崎市、東松島市、登米市、亶理町、岩沼市、石巻市など、年々面積が増加し、**令和5年度には最大91.9ha、現状で約80ha**となっている。
- 石巻地域では、平成29年から(農)おおしお北部が3.5haの栽培を開始、令和4年度で最大29haまで拡大した。令和4年から桃生地域で栽培が開始し、**令和7年は5法人、約40haの栽培**となっている。このことから、**石巻地域は県内最大の産地**となっている。
- カルビーポテト株式会社との契約は、令和8年で24年目となり、国内の産地は鹿児島など九州産が7月前まで、9月以降は北海道が主産地となる中で、関東・東北産地は、7、8月の端境期に収穫できる産地として重要視されている。本県の**令和7年産実績生産量は1,769トン**で、**内石巻地域が993トン(56%)**となっており、将来(20年後)**500ha、15,000トン**(3t/10a)の達成を目標としている。

#### 石巻地域の目標

- 栽培面積：100ha** 収量：**2.6t以上/10a**
- 令和6年度宮城県ぼてと生産者大会  
宮城県知事賞：(株)めぐいと  
高収量の部(知事賞次点)：(株)入沢ファーム
- 令和7年度宮城県ぼてと生産者大会  
宮城県知事賞：(有)イーストファームみやぎ  
高収量の部(知事賞次点)：(有)サンダーファーム牛田

4

## 02

- ・水田利用 → ほ場の排水性に優劣がある
- ・大面積栽培 → 排水対策や適期病害虫防除が不十分となる場合もある



収量の減少や品質の低下



- ほ場の選定（土質・排水性）
- 徹底した排水対策と病害虫防除
- 連作障害防止やほ場利用効率を踏まえた輪作体系の構築
- 土づくり（良質な堆肥の施用）



5

## 03

### 定性的目標

- ・各農業法人の生産技術の向上により、収量の増加が図られる。
- ・輪作体系の経営収支を算出し、経営改善に生かせるようになる。

### 定量的目標（水田面積当たり反収）

- ・ばれいしょ R5平均収量：2.2t/10a R6：2.4t/10a R7：2.6t/10a  
(R6実績：1.8t)
- ・さつまいも R5平均単収：1.5t/10a R6：1.8t/10a R7：2.0t/10a  
(R6実績：2.0t)

6

04

活動内容



ほ場毎の透水性調査R6実施→R7へ  
ほ場選定の参考になったとの声も



R6巡回による排水対策効果確認  
R7は5月31日降雨による被害無し



カルビーポテト株式会社のフィールドマンとの連携による支援

7

優良事例の紹介 みやぎ露地園芸PRパンフレット「水田で野菜をつくろう！より抜粋

**ばれいしょ優良生産者(株式会社めぐいーと【東松岡市】)**

- 取組年数：3年目
- 経営面積：10ha
- 単 収：3.4t/10a
- 所得(概算)：7.8万円/10a(交付金含まず)

**ここがポイント!**  
～温帯の露地となる露地の水を速やかに排水～

**①地表排水対策**

- ☑ 鍍鍍明渠の施工 (深さは30cm以上)
- ☑ 二重明渠の施工 (前層と後層明渠を接続)
- ☑ 明渠から排水口への接続を確実

**②地下排水対策**

- ☑ 作土層直下の鉄製管の埋設
- ☑ カットドレーン等の補助管の施工

※は排水対策によって必要経費は異なります。

**【図3】 地表排水対策のは場イメージ**



(農)おしお北部の排水対策



(株)めぐいーとの排水対策



(有)サンダーファーム牛田の二重明渠へつなぐ作業



8

## 5月31日大雨(70mm)後のほ場 6/5現在



(農)おおしお北部 4/7播種



(株)めぐいと 3/31播種



(有)サンダーファーム牛田 4/9播種



(株)大地 4/18播種



(株)入沢ファーム 4/11播種

9

### 04

活動内容



定期的な巡回支援(播種時)



現地検討会の開催 6月25日



桃生地域の3法人は、JAいしのまき桃生営農センター長の指導により、生育期間中適時に防除が出来るよう、ブームスプレーヤをほ場に置いたままにしている。



定期的な生育調査の実施



実績検討会の開催 11月25日

10

# 04

活動内容

## 輪作体系の検討と経営収支

- ・農園研の協力を得て、「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」を説明し利用方法を説明した。
- ・さつまいもは令和5年度(農)エコルファーム、ばれいしょは令和6年度(農)おおしお北部、令和7年度に(株)めぐいとで生産費調査が実施され、このデータが露地園芸品目導入経営シミュレーションに活用されている。
- ・ばれいしょの連作は2年を限度としており、そうか病が発生すれば1年で終了している。
- ・連作は収穫後に水張ることが基本となるが、ばれいしょ後にエンバクを播種し、ホールクroppサイレージとして販売することで、水田活用の直接支払い交付金の戦略作物助成金(飼料作物3.5万円/10a)を受け取っている。
- ・大豆、水稲作との作業の重なりや、高齢化、労働力不足で他の露地野菜は現状では不可能と判断されている。



11

# 04

活動内容

## 輪作体系

(農)おおしお北部



(株)めぐいと



※隣接地域で直播たまねぎの生産法人があり興味を示している

12

04

活動内容

ISHINOMAKI ポテト通信  
令和6～7年度で8回発行



令和6年度  
加工用ばれいしょ  
100ha産地を目指して  
事例集の発刊



令和7年度  
圏域版「いも読本」  
の発刊（作中中）

13

04

活動内容

さつまいもの支援 生分解性マルチの実証試験(令和7～8年度)  
(グリーンな栽培体系加速化事業 (農)エコルファーム)



スーパードロン#18 中期分解タイプ

イモイモマルチ 短期分解タイプ



現地検討会(8月29日)

実績検討 (12月18日)(1月30日)

さつまいもの生産拡大については、成果は現状ではみられないものの、農地整備地区の高収益作物として、検討している地区があり、引き続き生産振興したい。生分解性マルチの成果については、令和8年度に持ち越し。

14



・収量結果（カルビーポテト（株）発表データ）

ばれいしよ生産法人	年度	10a換算収量(単位:トン)
(株)めぐいと	R5	約2.6
	R6	約3.0
	R7	約2.3
(農)おしお北部	R5	約2.1
	R6	約1.3
	R7	約2.5

・収量結果（法人実収量）

さつまいも生産法人	年度	10a換算収量(単位:トン)
(農)エコルファーム	R5	約1.5
	R6	約2.0
	R7	約1.7



カットドレーンによる補助暗渠施工



二重明渠の施工

◎ほ場排水性改善に対する意識の向上



令和5年7月4日 夏疫病発生ほ場



令和7年7月15日 病気発生なし

◎徹底した病害虫対策と追肥の施用



R7.8.25撮影 (農)おおしお北部の収穫後の堆肥散布、すき込み作業

### ◎収穫後の土づくりに 対する意識の向上 と後作の検討



(株)めぐいーとのエンバク



(農)おおしお北部のエンバク

#### ・生産技術の向上

カルビーポテト(株)フィールドマンやJAと連携協力のもと、現地検討会や実績検討会を実施し、今年の作柄要因(天候、排水対策、病害虫発生状況等)を分析し、前作や他の生産法人と比較しながら、収量向上に向けた改善策を検討、実践することで、栽培技術が向上・定着した。

(※課題対象2経営体だけでなく桃生地区の経営体への波及効果も成果としてあげられる。)

昨年7月の高温、渇水による影響で、新たな課題が浮かび上がった。「今までは水田畑から水を抜くことばかり考えていたが、これからは、水を入れることも考えなければならない。」※カルビー山本氏の発言

#### ・理想的な輪作体系の検討

これまでの輪作体系の振り返りや、転作候補作物を法人と検討し、他作業との競合や機械化体系、人手不足などの課題を把握した。

他の露地野菜品目で、成功事例がある場合は、引き続き情報をつないでいきたい。

#### ・新規生産者の掘り起こし

ポテト通信、事例集、圏域版いも読本を発行し、取組状況の周知と新規取組候補者の発掘に活用し、次年度に農地整備事業地区で2haを新たに加工用ばれいしょを作付けすることになった。

また、さつまいもの現地検討会に参加した、農地整備事業地区担い手も、次年度40aさつまいもを試作する動きがみられる。

## 【ばれいしょ】

○令和7年度実績収量は、**2法人平均で2.37 t/10a**（水田面積換算）と目標を下回った。これは、7月の濁水で芋が肥大しなかったことが大きな原因で、新たな課題として検討した（二重明渠への灌水、灌水機械の導入、バイオスティミュラント資材等）。

○県全体では、契約数量2,059 tに対し、実績は1,769 tで契約対比86%であったが、**石巻地域は契約対比96%を達成**している。

○実績検討会では、カルビーポテト株式会社フィールドマンから、**石巻地域の生産者レベルは高い技術水準に達している**との評価を受けている。

○大規模な栽培面積に加え、ゲリラ豪雨など大雨の頻度の上昇など、異常気象により安定した栽培は難しくなっていますが、安定生産に向けた支援を今後も継続していきます。

## 【さつまいも】

○栽培方法、キュアリングも独自の技術が確立されつつある。

○生分解性マルチの実証試験がきっかけとなり、その**有利性が認められ、定着しつつある**。

